

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年12月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200275
法人名	株式会社 ケイシン
事業所名	グループホーム こくぶ太陽の家
所在地	鹿児島県霧島市国分中央一丁目24番地24号 (電話) 0995-48-7320
自己評価作成日	平成29年11月27日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成29年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居様が安全・安心に暮らせる環境作りに努めています。
- ・入居様のご家族の不安や負担を軽減し、より良い信頼関係が築ける様に支援に努めています。
- ・まちかど相談所として地域や近隣の方々とのより良い友好関係を築き、地域活動の積極的な参加に努めています。
- ・ライフサポートワーカーとして、自施設だけでなく市全体の介護事業発展への協力支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- (事業所の優れている点)
- 当ホームは、市街地に位置しているが今年度は、自治会の班長を担い清掃活動や役員会へ参加したり、回覧版を活用して地域の方と情報交換したりするなど利用者が地域と関わりながら暮らし続けられるよう取り組んでいる。また、事業所は、介護相談所として近隣だけでなく霧島市全体の福祉事業の活動に取り組んでいる。今年度も地域包括支援センターを中心に、啓発活動への協力や参加活動があり、鹿児島市との密な連携がとれている。
 - 献立は、その日の職員が食材を見ながら決めているが、地域や家族などから野菜などの差し入れも多く、年2回の家族会や行事、希望があれば昼食を提供するなどして利用者と一緒に食事が楽しめるよう取り組んでいる。職員は、栄養状態や嗜好を把握したり、食事形態を工夫するなどして食事が楽しみになるよう支援している。
 - 運営推進会議への家族の参加は年2回の家族会開催時に限定せず、利用者の状況や事業所の活動状況報告、地域やホームの実情や課題、外部評価の結果と改善の取り組みなどの話し合いや意見交換の場に家族が参加しやすいよう日程調整するなどの工夫が望まれる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念、個々の施設毎の理念とそれぞれ掲げ、職員一同思いを一つにして努力している。	法人やホームの理念は、重要事項説明書に記載し契約時に本人、家族に説明している。管理者は、理念が職員一人ひとりに浸透しており、共に実践できるよう検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し、自治会の地域清掃や役員会への参加、回覧の請負等地域の方々との関わりに積極的に参加している。	管理者が自治会の役員としての活動をおこないながら、地域の情報を収集し関係性を深め地域の役に立てるよう取り組んでいる。また、中学生の職場体験、高校生のボランティアなど積極的に受入れ地域貢献を意識した日常的なお付き合いができるよう今後検討していく考えである。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	ライフサポートワーカーを2名有し、まちかど介護相談所として近隣だけでなく霧島市全体の福祉事業の活動への積極的な参加に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月の運営推進会議にて入居者状況を報告し、7月と3月には家族会を同時に開催する事で現状を実際に見聞きし、家族の思いにも触れて頂いている。	契約書にて会議の目的などを明確にし利用者、家族に参加を呼びかけるなどしているが、年2回家族会と同時開催している以外に家族の参加がない。管理者は、利用者の日々の暮らしぶりやサービスの実情など家族と検討できる場をもっと増やしたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所より担当者を招いて、運営推進会議や家族会を実際にみて頂いている。ライフサポートワーカーの活動を通して市役所主催の行事へも積極的に参加している。	市担当者や福祉事務所職員との協力関係があり、地域包括との連携による啓発活動にも積極的に参加した。また、2月には、福祉祭り、11月は介護劇に参加するなど市やグループホーム連絡協議会との協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会での話し合いの機会を設けている。安全を考慮しつつ動きに不自由のない環境への配慮を、日々の業務内やミーティングを通じて積極的に話し合いケアに努めている。	勉強会をおこない身体拘束の弊害などについて知識や技術を研鑽している。委員会では具体的なケアの実践について、職員全員で話し合いをしているが、今月初めからセンサーマットを使用されている方もおられ、利用者の行動を抑制することなく自由に暮らしていただける環境整備に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待は勿論の事、精神的な部分での虐待にも配慮し、職員同士で行動や言動に問題がないかを互いが注意し合える関係づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の方々との連絡は密に行い、必要と感じた際は関係者への手続きの検討を促したりと支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は一項目ずつ読み上げながら、細かな部分での不安や疑問がないか確認を行いながら説明している。改定時には手紙にて送付し確認、同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>遠方の方でも毎月の手紙にて現状の報告を行い、些細な変化でも受診や変更がある際には電話連絡にて報告、確認を行っている。連絡は時間問わず随時受けられる旨をお伝えしている。</p>	<p>毎日面会に来られる家族や定期的な面会者もおられ、年2回の家族会への参加も多い。管理者や職員は、利用者には日々の関わりの中で聞き取り、家族には面会の機会に意見、要望などを聞くなど機会を設けて良好な関係性を築いている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常業務内にて聞かれた意見は可能なものから順次改善行う様努めている。即日対応の難しいものに関してはミーティングや、管理者会議にて本部への伺いを立てて周知に努めている。</p>	<p>職員は、個々の目標達成のため自己評価し勤務体制や職場環境の整備などはミーティングで話し合い働きやすい職場を目指し、意見や提案などを積極的におこないサービスの質の向上に繋げている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の時間に合わせた勤務の調整を行い、職員の生活にも配慮した勤務体制づくりに努めている。勤務年数やキャリアパス制度を登用し長く務める職員の意欲アップにも繋げている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各自希望する研修への参加を募り、時間の確保に職場全体でフォロー出来る仕組みの構築に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修やレクリエーション等、ライフサポートワーカーでなくても参加の出来る機会への積極的な参加を心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>意思、本人の思いの表出ができない利用者に対して、どう引き出すかが課題である。受容する姿勢を持ちながら、これからも思いを話して頂けるような関係づくりを目指していく。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族会、面会、受診等の機会をなるべく家族と話をする機会にし、要望や本人への思いを聞いていきたい。逢う機会のない方には毎月送付する手紙に加えたり電話連絡等を活用していく。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族の思いを丁寧に聞き取り、グループホームでの生活に対しての要望やニーズを把握しプランに活かしていく。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人のしたい事、出来る事、思いを大切にしながら、日常生活の作業を共に行い、暮らしを一緒に楽しめる様努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方で中々来れない家族は元より、近くに在住されている家族にも毎月状況報告のお手紙を書き、情報が絶えぬよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族会前には招待状を送り出来る限り家族以外の多くの参加を呼び掛けている。御友人の方が見えた際には他の友人への周知もいただける様お声がけしている。	毎日、面会に来られる家族の方とは利用者も顔馴染みの関係になり会話の輪が広がっている。受診などで外出される方や自宅に帰り、家族や地域の方々と交流される方もいる。また、長年ホームで飼われている猫は、利用者の癒しの役割を果たし家族の一員になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行楽等は出来る限り全員で集まって、自然に会話出来る環境・関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用時の情報を保存しいつでも情報提供できる状況にしてあり、必要に応じて相談に応じたり支援できる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者様の会話や表情、反応などから本人の思いを察し、それぞれの暮らし方の希望や意向を把握するよう努めている。	生活歴などの利用者情報、家族から聞き取りした情報をもとに利用者の思いを把握し、ミーティングで話し合い本人の思いや意向に沿ったケアの実現に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話、面会時のご家族や知人から情報収集、関係機関(病院・役所等)との連携を通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務の中で個々の過ごし方、心身の状態などの現状を記録に残し、申し送りやミーティングを通して職員間で情報の共有をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話連絡を通して家族への現状の説明をし、要望を取り入れるように心がけている。毎月のミーティング時に職員間でケアカンファレンスを行い、個々の利用者に対する意見を出し合い、ケアプランに反映させながら見直している。	モニタリング結果を踏まえ、ケアカンファレンスで本人の思いや意向、サービス内容を検討している。遠方の家族には、文書を郵送し電話で解りやすく説明して同意をいただいている。また、12月から介護計画書の書式を「ライフサポートプラン」に変更している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日中や夜間の発言や変動など日々の様子を職員やご家族が見ても分かり易いように記入し、朝夕の申し送りやミーティング等でも情報共有しながら今後の介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	電話やお手紙などで密に連絡を行うことにより、本人やご家族のその時々状況に応じて柔軟に支援できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政や地域のボランティア等の協力を頂き交流を深め、日々の暮らしを楽しく安心して生活できるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々にかかりつけ医があり、基本的には御家族に定期受診をお願いしている。必要時は職員が付き添い医療機関へ情報提供、発熱や皮膚トラブル等は近医や専門医に診てもらっている。	本人や家族の望む医療機関であり受診は家族に協力をいただきながら職員も同伴するなどしている。皮膚科医の往診や薬剤師の訪問がある。また、入院した際は文書にて情報提供し、入院先に出向き医療関係者などと面談し連携を図るなど本人や家族の希望に添えるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者様の状態変化やバイタル異常に気づき、入浴時は皮膚トラブル等にも注意している。異常や変化があった際は速やかに看護師に相談し、必要時HP受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入退院した際はサマリーを用い情報交換を行っている。入院中は職員が面会に行き入院中の状況も把握し職員全員で情報の共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合、御家族に病状説明を行い急変時の対応について相談し、希望に添える様になっている。終末期においても同様であり主治医の指示のもと、職員全員で同じ方向性で支援できるよう努めている。	契約時に重要事項説明書にて、重度化した場合の対応に係る指針を示し、看取りについてホームの考え方や取り組みについて十分に説明・同意を得ている。実際に事情に配慮し看取りを実施した事例がある。しかし、重度化や段階に応じた指針がなく口頭による説明になっているため、文書化が望まれる。	重度化した場合は、早い段階から、本人、家族などと話し合いをおこない、主治医や関係機関の意向を確認しながら、事業所でできることを文書にて説明し、方針を共有して納得のいく医療や介護が受けられるよう今後の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練や救急蘇生の勉強会を定期的に行い、発生時に必要な知識の習得に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年二回の避難、防火訓練と点検業者による設備点検の実施。自治会や運営推進会議にて地域や近隣の協力をお願いしている。</p>	<p>避難訓練や防災点検は定期的に実施されているが、地域の協力は得られておらず協力要請で止まっている。管理者は、地域関係者や運営推進会議などで協力を呼びかけるだけでなく具体的な方策を検討したいと考えている。</p>	<p>事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら実際に避難訓練を見学してもらったり、定期的に訓練に参加してもらいホームの実情を理解した上で協力をいただけるような取り組みも必要であろう。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言葉遣いや入居者様の表情や感情にも気を配り、その場あった声掛けを心掛けている。入浴や排泄、更衣の際は特に他の方の目に触れないようタオル等を用いて配慮している。	職員は、その方に合った声かけ、呼び方を意識し人格を尊重して、失礼のないよう対応している。管理者は、職員の対応のしかたや不適切な言葉使いがあった場合は、その都度指導し注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に負担のかからない範囲でその方のできる事を見つけ、本人の希望に沿ってできる気づきの介護を実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の得意ややりたい事は積極的にお願ひし、必要だが苦手な事に関しては気分を害さない様、声掛けのタイミングや方法を見直しながらなるべく負担少ない方法で実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣服の小まめな更衣や洗濯はもちろん、新しい衣類や散髪等変化に対してはより嬉しさを引き立たせる声掛けが出来る様、職員が心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養状態はもちろんの事、好みや食べ易さも考えて献立を組み、食べる事への楽しみを損なわない様に配慮している。	食事はもとよりおやつに関しても旬の物や嗜好を取り入れるなど献立は色彩豊かな工夫があり昼食は希望があれば家族にも提供している。また、嚥下がしやすいよう食事形態に気をつけたり、行事食、出前、弁当を楽しむなど利用者が食べる意欲を失うことがないように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の食事摂取量のチェック、嚥下状態の観察を行いながら、個々に合わせて食事の形態を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを週刊とし、毎食後の声掛けを行っている。自立動作の難しい方は介助にて行い、歯科往診も入って義歯のチェックも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し自尿のある方は時間ごとにトイレ誘導を行っている個々にあった排泄介助が出来る様支援している。	排泄のリズムを把握し、個々に合った排泄方法を検討してトイレで排泄ができるようケアし排泄の自立支援に取り組んでいる。認知症の方にとって排便コントロールは特に重要であることを意識し、食事を工夫したり、運動などを日常生活に取り入れ排便習慣を意識した取り組みを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の記入と申し送りによる便秘や下痢の状態把握を行っている。内服の与薬、水分摂取を促し、なるべく自力での排便がスムーズに行える様コントロール図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	車椅子の方など浴槽に浸かる事のできない方は、断続的にお湯をかけ寒くないよう配慮している。湯の温度には好みもあるので入浴する順番など工夫し対応している。	職員は、なるべく利用者が浴槽に浸かり入浴が楽しめるよう配慮するとともに、車いすの方には二人介助で移動して不安なく入浴ができるよう支援している。また、下肢のむくみ軽減や皮膚トラブル軽減などのため、足浴にてケアしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子の方など同じ姿勢が続かないように定期的に休む時間を設けている。昼夜逆転にならないよう時間配分も考え個々の状態に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容をファイリングし職員全員が常時確認できるようにしている。発熱、排便のコントロール等で使用した頓服は日誌や経過表に記入、申し送りにて重複のないよう注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日等行事への参加、洗濯干しや野菜の下拵えなどできる範囲でお手伝い頂いている。お願いする際は入居者様のコミュニケーションにも配慮しトラブルの無いよう心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴や散歩をその日の体調に合わせて行っている。買い物やドライブ、季節毎の行楽など可能な限り全員が参加できるように計画、実行している。	年間行事計画を作成し、季節や地域の行事に合わせて外出を楽しんだり、受診後や本人の希望を聞いて家族の協力をいただきながら、ショッピングを楽しんだり、ドライブして紅葉を見て季節の移り変わりを肌で感じるなど外出の機会が楽しめるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	御家族よりお小遣いをお預かりし、ホームにて保管・管理を行っている。欲しい物や補充が必要な際は御本人や御家族に相談し購入している。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	本人の要望があれば、いつでも自由に連絡が取れる様支援している。荷物などが届いた際は施設からの電話連絡の折りに御本人へ代わり、御本人からもお礼を直接伝えて頂いている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	座席順に配慮し、利用者同士でのトラブルや混乱を招かない様に努めている。各空間への誘導は他の方との重ならない様に状況をみて行う。壁や玄関等季節に合った飾りつけをし、建物内でもより季節を感じれる様に心がけている。	玄関から共有スペースや居室が一望できる間取りになっており、天井は高く採光があり、対面式キッチンや職員の事務ワークスペース、大型テレビを囲うようソファが配列されていて、愛猫が寝そべっている。また、利用者の作品や行事の写真など掲示物は見やすく整理され、季節感を感じさせる温かみのある共有空間である。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	座席に注意し、話し相手や気の合う者同士で楽しく過ごせる空間づくりに配慮している。ソファ席は自由に利用でき、ゆっくりをテレビ視聴も出来る様配置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の好きな物や家族の写真などを本人に確認を取りながら飾っている。本人の状態によってベッドや家具の配置を替え、より過ごしやすい環境へと随時変更を行っている。</p>	<p>最長で7年居住されている方もあり、愛着のある馴染みの物や好みの品を活かして、居心地よく過ごせるよう配慮されている。また、本人の身体機能に合わせてベッドに手すりを設置するなど移動の自立支援のための工夫もみられる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>車椅子の方が動き易い家具等の配置を考慮し、自由に行き来がし易いホールや、トイレなどは目印をつけてより行動し易い環境づくりに努めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない